

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の防除対策の徹底について

麦類の出穂に伴い、今後、赤かび病の防除が本格化する時期となります。週間天気予報によると、4月11日～14日頃は曇雨天が予想されており、さらにその後の天候次第では本病が多発生する恐れがあります。

については、下記事項を参考に、最新の気象予報と圃場の観察に基づく適期防除を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

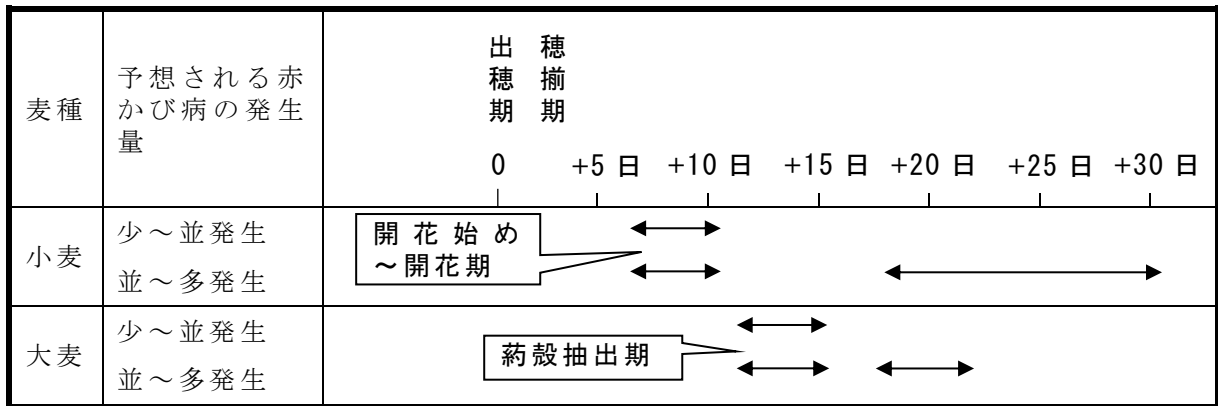
1. 赤かび病の発生条件と気象予報

- (1) 赤かび病は、雨が多く、気温が比較的高く（20～27℃）経過すると多発生となりやすい。
- (2) 九州北部地方の週間天気予報（福岡管区气象台4月7日11時発表）では、4月11日から14日頃は曇雨天が予想されている。
- (3) さらに、九州北部地方の1か月予報（同气象台、同日発表）では、向こう1か月の気温は高く、天気は数日の周期で変わると予想されている。
- (4) 以上のことから、今後感染に好適な気象条件が出現した場合、本病が多発生する恐れがある。

2. 防除対策

- (1) 小麦の場合、開花始め～開花期（出穂期の約7～10日後）の赤かび病防除は、発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、開花10～20日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる（図1）。なお、本病の発生が多いパン用小麦については、2回防除を基本とする。
- (2) 大麦の場合、蒴殻抽出期（出穂期の約2週間後）の赤かび病防除は発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる（図1）。なお、本病にやや弱い「はるか二条」については、2回防除を基本とする。
- (3) 出穂期は、播種時期や麦種、圃場条件等によって異なるため、必ず圃場ごとに生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

図1 赤かび病の防除適期



注1) 出穂期とは全莖数の40～50%が出穂、穂揃期とは全莖数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出期とは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

注5) 矢印は防除適期を示す

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

